

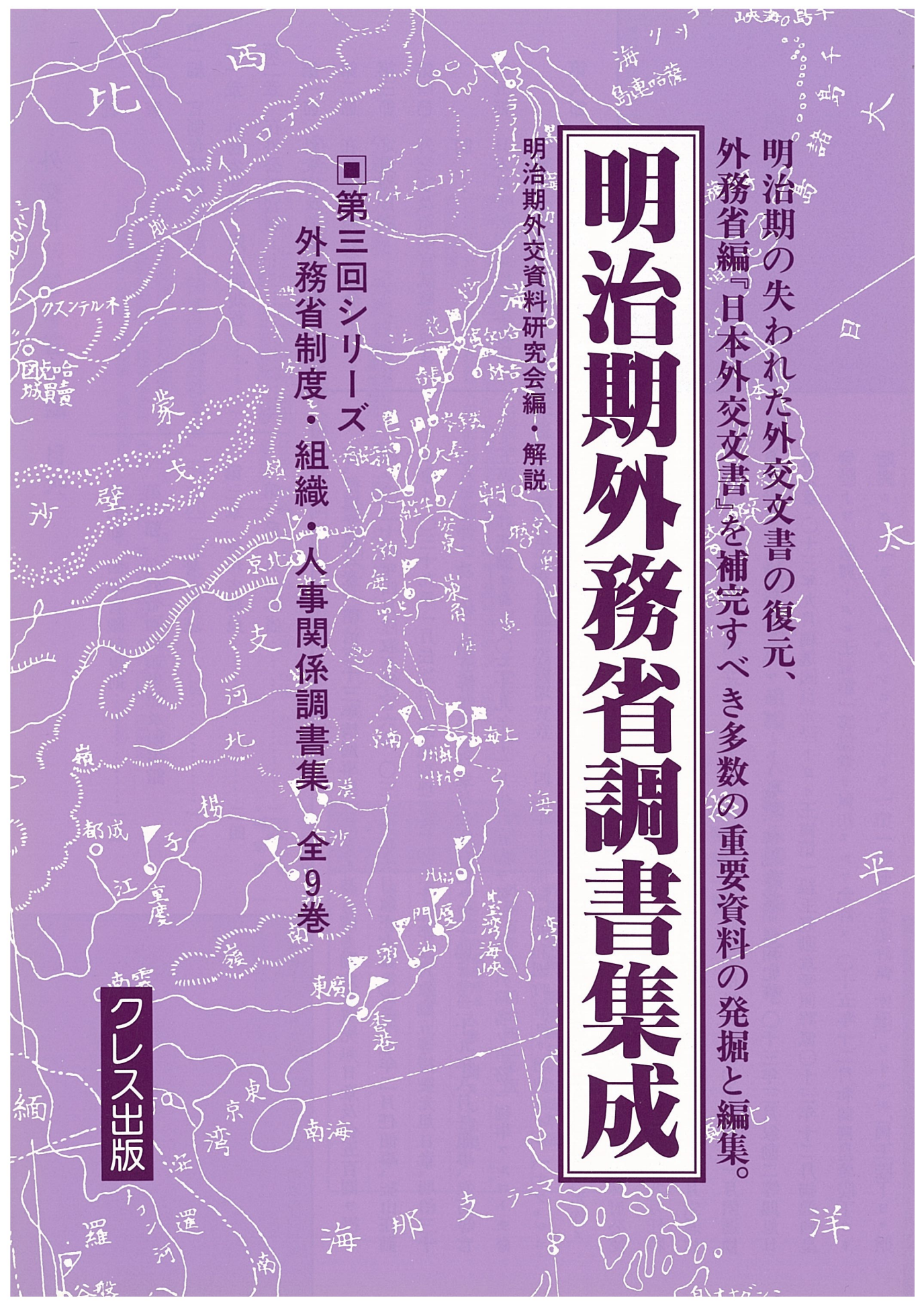
明治期の失われた外交文書の復元、
外務省編『日本外交文書』を補完すべき多数の重要資料の発掘と編集。

明治期外務省調書集成

明治期外交資料研究会編・解説

■第三回シリーズ
外務省制度・組織・人事関係調書集 全9巻

クレス出版



『明治期外務省調書集成』第三回シリーズ 『外務省制度・組織・人事関係調書集』刊行にあたって

近代国家形成過程の中で発展した日本官僚制の歴史の変遷や、その果たした役割については、すでに多くの研究者によって、さまざまな角度から論述されてきた。しかし、未だその制度、組織についての解明は、その構成員である官僚の経歴業績ともあわせて、必ずしも充分に進んでいるとはいえない。その原因は多様であるが、各行政機関官庁の制度・組織に関する情報は、戦前より長い間国家の最高機密扱いとされ、その公開は今日でも国益を損ねかねないとの懸念意識があり、為政者外交官の経歴業績についての情報も、公人といえどもプライバシー問題にも関わるとの口実を以て、往々秘匿されてきたことによる。

現在、我々は日本外交史に関わる多くの原史料を閲読することが可能になっており、より実証主義的研究が求められるようになってきた。その研究対象である日本外交の軌跡は、当然ながら外務省の制度、組織、人事に大きく影響されて展開してきたことを否定できない。しかしながら先の事情により、例えば官庁機構程度の改廃変遷年月、外交にたづさわったある人物の官職就任退任の年月などの情報を調べるといような、いわば研究の基礎作業のために払う努力は意外に多くの時間を費やし、しかも正確であ

ることを求められる厄介な仕事となっている。そこで、日本外務省の制度改革、組織変遷、および外交にたづさわった人々の経歴業績に関する情報書としての外務省調書を、『明治期外務省調書集成』の第三回シリーズ、『外務省の組織・人事・制度』として復刻刊行することとした。本書に収められた調書は、従来部外秘扱いとされ、いわば外務省部内のみで執務参考書、あるいは教書として限られた範囲でのみ使用されてきたものであるが、今後幅広く外交史、近現代史の多くの研究者に必携の手引書として利用されることのみならず、戦後五〇年にして国際社会の中での日本のありかたが問われている今日、一般国民のための貴重な情報資料たることを確信するしだいである。

明治期外交資料研究会（五十音順）

- 稲生 典太郎（元中央大学教授）
- 岩壁 義光（法政大学講師）
- 佐藤 元英（駒沢大学助教授）
- 檜山 幸夫（中京大学教授）
- 堀口 修（宮内庁主任研究官）
- 安岡 昭男（法政大学教授）

明治期外務省調書集成 第三回シリーズ 外務省制度・組織・人事関係調書集 全9巻

●収録一覧

- 外務省人事課 『外交官及領事官年鑑』 明治四〇年版（全三四頁）
- 外務大臣官房人事課 『外務省年鑑』 明治四一年版（全四九〇頁）
- 外務大臣官房人事課 『外務省年鑑』 明治四二年版（全五二二頁）
- 外務大臣官房人事課 『外務省年鑑』 明治四三・四四年版（全五八一頁）
- 外務大臣官房人事課 『外務省年鑑』 明治四五年版（全五七八頁）
- 外務省官制・分課規程・在外公館官制・職員リスト（外務本省員 大使館員 公使館員 総領事館員 領事館員）・外務省官吏略歴・外務省歴任官吏表・各国君主並大統領・在本邦各国大使館員公使館員総領事館員リスト・在本邦各国外交官及領事官歴任表等

●構成一覧

第1巻	外交官及領事官年鑑 明治四〇年版
第2巻	外務省年鑑 明治四一年版
第3巻	外務省年鑑 明治四二年版
第4巻	外務省年鑑 明治四三・四四年版
第5巻	外務省年鑑 明治四五年版
第6巻	外務省 <small>附統監府及 關東都督府</small> 人事二関スル法規
第7巻	外務省人事法規
第8巻	領事官執務参考書(1)
第9巻	領事官執務参考書(2)

* 造本体裁…A5判／上製函入／クロス装
* 刊行予定…一九九五年十月末日
* 揃定価…一三九、〇五〇円（本体一三五、〇〇〇円）

外務省通商局 『領事官執務参考書』 明治四二年版（全二七八頁）

官制・管轄区域・裁判及監獄・犯罪人引渡・非訟事件及登記・領事官命令・救助及取締・船舶及船員・戸籍遺産登録・證明・手数料・旅券及執照・海外渡航・居留地及居留民団・学事・陸海軍・通信及報告・直接通信・禮典・賞勲及贈答・会計等

外交官及領事官年鑑 目次

皇統

親王家

第一編 官制及職員

第一章 外務省官制 附分課規程

第二章 在外公館官制

第一節 外交官及領事官官制

第二節 在外公館職員定員令

第三節 定員外官吏

第四節 外交官及領事官試驗委員官制

第五節 日本專管居留地經營事務所官制

第六節 領事官ノ職務

第七節 領事官職務規則

第八節 在外帝國總領事館及領事館管轄區域

第二章 外務省職員

第一節 外務本省

等、授單光旭日章、明治二十三年清國事變ニ於ケル功ニ依リ勳六等單光旭日章及金五百圓ヲ授ケ

賜フ○三十六年四月陞叙高等官六等 ○三十六年六月叙正七位 ○三十七年二月任領事、釜山在勤

ヲ命ス ○三十九年一月任釜山理事廳副理事官 ○三十九年四月叙勳五等授變光旭日章、明治三十

七八年事件ノ功ニ依リ勳五等雙光旭日章及金五百圓ヲ授ケ賜フ○三十九年八月任領事、叙高等官

五等、牛莊在勤ヲ命ス ○三十九年十一月牛莊在勤ヲ免ス、臨時外務省ノ事務ニ從事スルコトヲ命

ス ○四十年九月叙勳四等授瑞寶章 ○四十年十月佛蘭西共和國政府ヨリ贈與シタル「オフヒシエ

一、ド、ロルドル、ナシヨナル、ド、ラ、レシヨン、ドノール」勳章ヲ受領シ及佩用スルコトヲ光許ス

青木周藏(子爵)(Shiro Aoki) 弘化元年正月山口生○明治六年八月任外務一等書記官伯林府公使

館在勤被仰付 ○六年十一月叙正六位 ○七年八月任代理公使獨逸國在勤被仰付 ○七年九月任特

命全權公使 ○七年十一月叙從四位 ○十一年二月叙勳三等授旭日中綬章 ○十一年十一月索遜國

「アルブレヒト」第一等勳章受領 ○十二年九月條約改正取調御用掛被仰付 ○十二年十一月索遜國

皇帝陛下ヨリ贈與シタル「アルブレヒト」第一等勳章受領佩用允許 ○十三年三月叙勳二等賜旭日

重光章 ○十三年九月獨逸國皇帝陛下ヨリ王國第一級王冠勳章受領許佩 ○十三年十二月獨逸國皇

帝陛下ヨリ贈與シタル王冠第一等勳章ヲ佩用スルヲ允許ス ○十五年十二月和蘭國皇帝陛下ヨリ

贈與シタル「ネーデル、ランセン、レーウ」第一等勳章受領許佩、索遜「ワイマル」國王陛下ヨリ贈

タル「グランクロワー、ド、ロルドル、ベルトホール」第一世勳章ヲ受領シ及佩用スルコトヲ允許
ス○四十一年六月獨逸國駐劄被免、臨時外務省ノ事務ニ從事スルコトヲ命ス○四十一年十月條約
改正準備委員會副委員長被仰付

石井菊次郎(Kikujiro Ishii) 慶應二年三月上總國長柄郡二宮本鄉村生○明治二十三年七月東京
帝國大學法科大學卒業○二十三年七月外務省試補ヲ命ス○二十四年十月任實際官試補、巴里在

勤ヲ命ス○二十四年十二月叙從七位○二十六年十一月任公使館三等書記官、叙高等官六等○二
十六年十二月叙正七位○二十九年九月任一等領事、叙高等官五等、仁川在勤ヲ命ス○二十九年

十月叙從六位○三十年六月法朗西共和國
ナル、ド、ラ、レシヨン、ドノール」勳章ヲ

ヲ命ス○三十年十一月兼任公使館二等書
旭日章○三十一年十一月任公使館一等書

年十月西班牙國皇帝陛下ヨリ贈與シタル
リツク」勳章ヲ受領シ及佩用スルコトヲ

二月總務局電信課長ヲ命ス○三十四年一

目次

外務省ノ部

第一編 法例及公式令

○法令(明治三十一年六月)

○公式令(四十年二月)

第二編 官制及官印

第一章 官制

第一節 通則

○各省官制通則(二十六年十月勳)

○奏任ト爲スコトヲ得ル諸官ニ關スル件(三十二年四月勳)

○各省主管ノ事項ニ付他省主管ノ事務ニ關係アルトキ協議ヲ要スル件(三十二年七月内閣書記官長通牒)

第二節 外務省所管官制

○外務省官制(三十一年十月勳令)

○外務省分課規程(三十三年)

○外交官及領事官官制(三十二年六月勳令)

○在外公館職員定員令(三十二年六月勳令)

■ クレス出版好評既刊書 呈詳細内容見本

外務省執務報告

全12巻 白井勝美・濱口學・原口邦紘解説

外務省の各局部が年度毎に行なつた執務を、網羅的かつ具体的に把握できる資料。太平洋戦争に至る日本外交の全貌を明らかにする。

東亜局 全6巻 A5判/総五、〇六二頁/揃価一三九、〇五〇円

欧亜局 全3巻 A5判/総二、五八六頁/揃価七二、一〇〇円

垂米利加局 全3巻 A5判/総二、〇三四頁/揃価五六、六五〇円

第二期全9巻 本宮一男・白井勝美解説

通商局 全4巻 A5判/総四、〇〇〇頁/揃価一〇九、一八〇円

條約局 全2巻/情報部 全1巻

調査部 全1巻/文化事業部 全1巻

A5判/総四、三〇〇頁/揃定価一一七、四二〇円

外務省公表集

全12巻 佐藤元英監修・解題

外務省から文書によつて発表された主として声明、談話、通告、説明、交換公文などの外交関係記事を蒐集し、記録に留めるために編纂されて、公刊されたもの。大正八年から昭和十八年までの二二輯と「満州事変及上海事件公表集」、「支那事変関係公表集」も含む。

A5判/総七、三〇〇頁/揃定価一八七、四六〇円

露西亞月報

全22巻/別冊 外務省調査部第三課編 吉村道男解説

満州事変後のソ連邦の全貌を多角的にとらえようと、ソ連邦に関する調査、重要時事問題および法令集要覧を加え、本省と在外公館の執務並びに日滿における調査機関の調査上の参考に資するとともに、ソ連事情啓発のため昭和九年一月より同十九年三月刊行された。

A5判/総一八、五〇〇頁/揃定価五一五、〇〇〇円

日清講和関係調書集

全13巻 明治期外交資料研究会編

明治期外務省調書集成第一回 日本外交史研究のための根本資料である『日本外交文書』の欠落部分を補完するのみならず、日本外交のより生き生きとした歴史事実を解明。「日韓交渉歴史」「日清韓交渉事件記事」「日清講和始末」「露独仏三国干渉要概」「蹇々録」他。

A5判/総八、〇二二頁/揃定価一九八、七九〇円

日露講和関係調書集

全9巻 明治期外交資料研究会編

明治期外務省調書集成第二回 外交交渉当事者、外交事務担当者によつて、自身の経験あるいは事務処理の過程の上で作成された報告書集。日露交渉二関スル往復、日露事件要報、日露事件外評一斑、日露講和会議録・談判筆記、満州二関スル日清交渉会議録他。

A5判/総五、八四二頁/揃定価一四九、三五〇円

南洋叢書

全5巻 満鉄東亞經濟調査局編 原田勝正解題

第一次大戦後、とくに一九三〇年代にはいり日本の資源獲得のために目標となつた地域(蘭領東印度、佛領印度支那、英領マレー、シヤム、比律賓)の広範囲に及ぶ高度な資料集である。経済・商業・貿易・交通・国際関係等の研究者の方にご利用いただける資料。

A5判/総三、一〇〇頁/揃定価七二、一〇〇円

樺太廳報

全7巻 樺太廳文書課編 荒澤勝太郎解説

樺太廳の施政並に法令に関する意図や其の内容を詳かにし、又汎く本島の産業・文化に関する研究意見を紹介することを趣旨とした官庁誌。第一号(昭和十二年五月)〜第二十号(昭和十三年十二月)の全号全頁、「樺太時報」の目次・樺太日誌・資料月報を全号復刻。

A5判/総四、四二〇頁/揃定価九九、九一〇円